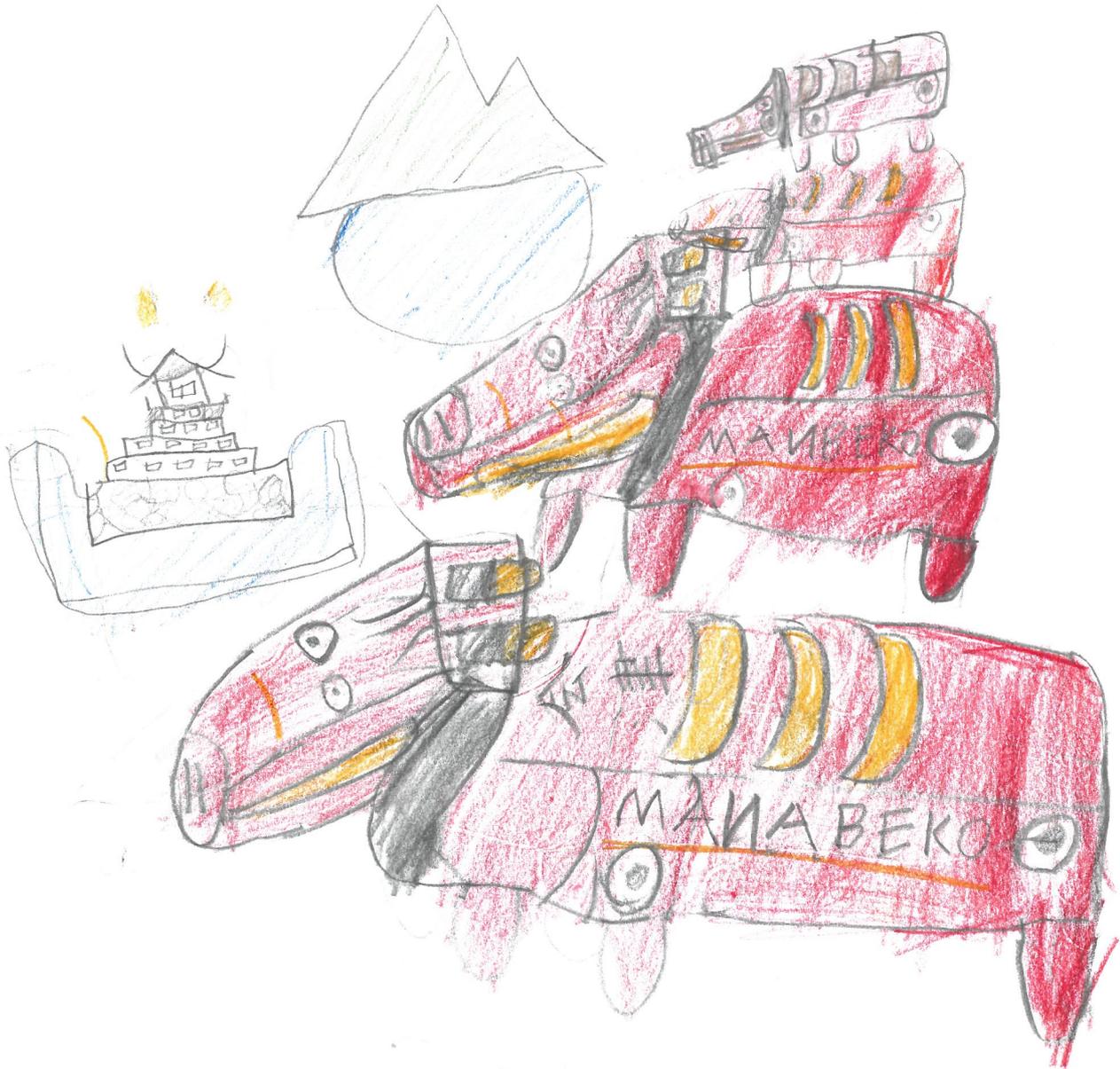


赤べこの 人気

城北小学校 4年3組
鈴木 理夫



赤べこの人気

城北小学校 4年3組 鈴木理久汰

まず、なぜこの研究を始めようかと思ったかという、ぼくは赤べこが好きだからです。

3年生のときに体験学習では赤べこの絵付け体験をしに行き、いろいろなことを教わったり、絵付けをしてさらに赤べこにきょうみを持ちました。

また、TVなどを見ている赤べこを見かけたり、アカベコランドができたり、ぼくのように赤べこが好きな人が多くて、人気があるのはどうしてだろうと考えてみたくなりました。

赤べこはなぜこんなに全国的に人気があるのでしょうか？

理由は何なのでしょう。

まずは自分の考えでは、人気の理由はただ単にかわいいからだと思います。

研究の方法ですが、赤べこ伝説発祥の地・柳津へ行きました。そのあと、いろいろな赤べこのお店に行き、店内の見学や絵付け体験、お話を聞いたりしました。あとは図書館で本を読んだり、まなべこに行きました。インターネットで調べてみたり、家族に質問もしました。

期間は夏休みです。

さっそく柳津町をまわっていると、柳津駅で偶然、赤べこTシャツを着たおねえさんに会いました。そのお姉さんにお話を聞くと、赤べこのインスタグラムをやっている、やっと大好きな赤べこの本場・会津と柳津に来られたと話してくれました。お姉さんの地元・東京でもかわいくて人気だそうです。

やっぱり、かわいいから人気なんだなと思いました！

まずは、赤べこ伝説について調べました。

「日本の東北地方では、「牛」のことを「べこ」と呼びます。
今から四百年ほど前の1611年に会津地方を襲った大地震で虚空藏堂をはじめ僧舎・民家が倒壊し柳津町も大被害を受けました。

震災後の1617年に初めて虚空藏堂（本堂）は現在の巖上に建てられましたが、本堂再建のため大材を巖上に運ぶのに大変困り果てていたところ、仏のお導きか、どこからともなく力強そうな赤毛の牛の群れが現れ、大材運搬に苦勞していた黒毛の牛を助け、見事虚空藏堂（本堂）を建てることのできたのです。

一生懸命手伝った赤毛の牛を「赤べこ」と呼び、忍耐と力強さが伝わりさらには福を運ぶ「赤べこ」として多くの人々に親しまれるようになりました。この伝説が、柳津町が「赤べこ発祥の地」と言われる由縁です。」

（会津やないづホームページより）

<https://aizu-yanaiizu.com/feature/akabeko-legend/>



赤くまんこくぞうそんどう



おでうし

町の中に大きな赤べこが何体もいました。
赤べこを目当てに、たくさんの方が柳津町に来ているようでした。



日本一大きい赤べこ

次に「アカベコランド」へ行きました。

ずっと行ってみたかったのでうれしかったです。

2階の絵付け体験は、大きな部屋の座席がほぼ満席に近いくらいに混み合っていました。

大人も子どもも、海外の人もみんな真剣に、自分の好きな模様を時間をかけて絵付けしていました。それぞれ色も、模様もみんな違いました。

ぼくは少し暗い赤色で昔ながらのかっこいい赤べこに絵付けをしました。細かいところなど上手くいかなくて、とてもむずかしかったです。

ぼくの妹は水色べこにして、フルーツ模様をかいていました。

アカベコランドの1階には、歴史や豆知識が書いてありました。

赤べこ伝説が元になって作られた、福島を代表する郷土玩具が赤べこ。

牛の形をしたまっ赤な体に、黒い点がついてるのが特徴で、これは「ほうそう」

(天然とう)を表したもの。昔、ほうそうは死にいたる危険な病気で、特に幼い子がよく亡くなってしまっていた。この病気に子供たちがかからないよう、身代わりとして赤べこにきざまれている。

(「アカベコランド」の『教えて!VEKO兄コーナー』より)

ぼくはその通りに、赤べこのからだに白いふちどりに黒い点をつけて完成させてました。



ぼくが、絵付けした赤べこ



妹が、絵付けしたフルーツベコ

また他には、

数百年前、会津地方で天然とうが流行し、大勢の命が失われました。その際、天然とうに苦しむ子どもがいる家に親類から赤べこが送られてきたところ、その子は命を落とすことなく、すっかり元気になりました。赤べこが身代わりになって病気から守ってくれたと大変喜ばれたそうです。

赤べこのお腹にある黒丸の模様は、天然とうが治った時にできたあとだと言われていて、今でも会津地方では、赤べこは『持っている人を悪い病気から守ってくれる』と信じられている。とありました。

(「まなべこ」 『赤べこの由来』より)

こうした言い伝えから赤べこは会津の人々から厄除けのお守りとして、子どもの誕生祝いや見舞いの品として送られることが多かったそうです。

(中川政七商店の読みもの より)

https://story.nakagawa-masashichi.jp/craft_post/120021

どうも、ただかわいいだけが人気の理由ではないようです。

家族からは、新型コロナウイルスが大流行していたとき魔除け＝ウイルス除けとして話題になったと聞きました。その時は赤べこの在庫が無くなるほど人気だったそうです。

他にも、赤べこが首を振るのは子供をあやすためとありました。
ぼくも家にある赤べこや駅前にいる大きな赤べこを見かけると、つい触ってゆらゆらさせたくになります。

上手にゆらゆらと首を振る赤べこは、どうやって作られているのか説明します。

1、のり付け

和紙を6枚重ね張り

↓

2、型づくり

重ね張りした紙を、型に押し付け成形して、乾燥させる

↓

3、型切り

カッターで切り、取り出す

↓

4、背張り

切った部分を再度、和紙で貼り付け

↓

5、白塗り

全体を白で塗り、乾燥後もう一度白で塗る

↓

6、赤塗り

全体を赤で塗る

↓

7、絵付け

黒・白・金で絵を付ける

↓

8、仕上げ

おもりをつけた頭部を糸で胴につけ、完成
(荒井工芸所ホームページより)

<https://warabi-akabeko.com/about-akabeko/>



制作工程



のりつけしているようす。

また調べていると、赤べこはお店によって首の揺らし方やえがかれる模様などに違いがあるようです。

「手作り広場・番匠」では、型についてのお話しをして頂きました。

それに型は元々、木をひとつひとつ手作りしていたから、作る職人さんやお店によって形もそれぞれ違い、完全に同じものはなかったそうです。

また、木の型は長く使ううちに水のみで腐って割れてしまうから、今は陶器で作るそうです。

市ホームページ上での作品公開はここまでです。

全編をご覧になりたい場合は、会津図書館や歴史資料センターまなべこでの作品公開をご利用ください。

◆会津図書館

〒965-0871

福島県会津若松市栄町3番50号

生涯学習総合センター（會津稽古堂）2F

◆歴史資料センターまなべこ

〒965-0807

福島県会津若松市城東町2番3号